

## 令和4年度全国農業高等学校等プロジェクト発表要旨

農業高等学校名 千葉県立農業高等学校 学科名 農学科 学年 2年 氏名 いわさわ ゆら  
岩澤 裕来

### 1 課 題

水田圃場内におけるスクミリンゴガイ捕殺トラップの開発とブランド米開発システムの構築

### 2 課題設定の理由

スクミリンゴガイは、通称ジャンボタニシと呼ばれ、移植直後のイネ苗を食害し、生育不良や欠株を引き起こし、侵入した地域ではイネ苗の被害が大きな問題となっている。昨年度、千葉県立農業高等学校ではスクミリンゴガイを誘引して捕殺するバケツ式の「駆除トラップ」を開発した。しかし、トラップの製作する時間や、実際に圃場に設置すると時間や労力などがかかってしまうことが課題となっている。さらにアライグマなどによってトラップが破壊され、獣害対策も必要となった。そこで本研究では、従来のトラップと比較して、製作時間、コスト、設置時間の削減と防除効果の向上を目的とした新規の誘引トラップの開発を目指す。さらに千葉県東金市内の水田圃場には、絶滅危惧生物のトウキョウサンショウウオが生息しており、貴重な生物を保護し、なおかつ、本種を活用したブランド米を商品化する。生産者の所得を向上させ、安全安心なコメを消費者に届けるブランド米開発システムの構築を目指す。

### 3 実施方法

(1) 新型「駆除トラップ」の開発：プラスチック製タッパーを活用して、駆除トラップを開発した。フタを中心から放射状に切込み、切込み片を折り込むことで開口部を作製した。トラップを約10アールの水田圃場に15ヶ所設置し、一週間に一度トラップを回収し、スクミリンゴガイの数を調査する。

(2) ブランド米開発システムの構築：ブランド米開発システムを立案した。ブランド化に重要な要因を明確化し、作成したシステムの手順に沿ってストーリー性のあるブランド米の開発に取り組む。

### 4 結 果

新型の駆除トラップで合計773頭のスクミリンゴガイを捕獲することができた。イネへの食害を減らすという結果が得られた。さらに今回作成したトラップはアライグマなどの野生動物に破壊されないことが確認でき、設置時間が従来のバケツトラップの半分以下の時間で設置することができた。

ブランド米開発システムの構築は、①ブランド名は「トウキョウサンショウウオ米」とした。②地域農業の支援として、任意団体「トウキョウサンショウウオ米栽培研究会」を立ち上げ、儲かる農業システムを作り上げた。③ブランド米を認知させる方法として、マスメディアや書籍などでブランド米を紹介した。④ブランド米の価値として、コーズマーケティングにより消費者が社会貢献と生産者の利益向上を実現することが可能となった。⑤生産者や地域住民等との連携はブランド米が懸け橋となり、企業からのブランド米購入販売依頼や地域住民の保護活動への参加、行政との打ち合わせも行われている。

### 5 考 察

開発した駆除トラップは、従来のバケツトラップよりもコストを削減することができた。獣害対策による効果も認められている。さらに令和4年7月6日にはスクミリンゴガイの「駆除トラップ」として、特許を出願し、新規性のある商品として、減農薬栽培に大きく貢献できると考えられる。

任意団体「トウキョウサンショウウオ米栽培研究会」を設立することにより、ブランド米構築のシステムづくりをおこなうことができた。農家の所得向上や、トウキョウサンショウウオの保護活動、環境保全型農業を実現することができた。「トウキョウサンショウウオ米」は物語の見える商品として、地域活性化に貢献でき、知名度や競争力を獲得し、増収増益が見込めると考えられる。